

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4901742号

(P4901742)

(45) 発行日 平成24年3月21日(2012.3.21)

(24) 登録日 平成24年1月13日(2012.1.13)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 33/25 (2006.01)

B 6 5 D 33/25

A

B 6 5 D 33/34 (2006.01)

B 6 5 D 33/34

請求項の数 8 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2007-534985 (P2007-534985)	(73) 特許権者	510135418
(86) (22) 出願日	平成17年7月28日 (2005.7.28)		エスドゥエフ・フレクシコ
(65) 公表番号	特表2008-515729 (P2008-515729A)		フランス国、60544 エノンヴィル、
(43) 公表日	平成20年5月15日 (2008.5.15)		ルト・ドゥ・メリユ、1
(86) 国際出願番号	PCT/CH2005/000449	(74) 代理人	100069556
(87) 国際公開番号	W02006/037240		弁理士 江崎 光史
(87) 国際公開日	平成18年4月13日 (2006.4.13)	(74) 代理人	100111486
審査請求日	平成20年7月2日 (2008.7.2)		弁理士 鍛冶澤 實
(31) 優先権主張番号	1645/04	(74) 代理人	100157440
(32) 優先日	平成16年10月7日 (2004.10.7)		弁理士 今村 良太
(33) 優先権主張国	スイス(CH)	(74) 代理人	100153419
			弁理士 清田 栄章
		(72) 発明者	ガルガー・ライナー
			オーストリア共和国、1130 ウィーン
			、フィヒトナーガッセ、20
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 紙製又は合成樹脂製の袋体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

袋体前面部（3，103）及び袋体背面部（5，105）と、
 開封後に再密閉可能な密閉部材（11，111）と、
 不正開封防止包装手段（17，117）と
 を備えて成り、

前記密閉部材が、雌雄嵌合型のファスナで構成されているとともに固定カバー（11a，11b，111a，111b）を結合した当該袋体の上端部において前記袋体前面部（3，103）及び前記袋体背面部（5，105）に結着されている、紙、合成樹脂又はこれらの積層物から成る袋体において、

前記固定カバー（11a，11b，111a，111b）の長さ（L）を前記袋体前面部（3，103）及び前記袋体背面部（5，105）の幅（B）よりも短く設定するとともに、前記袋体前面部（3，103）及び前記袋体背面部（5，105）をその側方の袋体中間部（7）との接続部で袋体前面上端部（3'）及び袋体背面上端部（5'）に沿って所定の長さ（a）だけ切断し、前記密閉部材（11，111）を前記袋体前面上端部（3'）と前記袋体背面上端部（5'）の間に挿入して複数の前記密閉部材（11，111）を次々に連結するよう構成したことを特徴とする袋体。

【請求項 2】

前記袋体前面部（3）及び前記袋体背面部（5）を前記固定カバー（11a，11b）の両端の外部範囲で互いに結着したことを特徴とする請求項 1 記載の袋体。

【請求項 3】

前記雌雄嵌合型のファスナ（１１）の長さ（Ｌ）を前記袋体前面部（３）及び前記袋体背面部（５）の幅（Ｂ）と同じか、或いは長く設定するとともに、前記固定カバー（１１ａ，１１ｂ）を前記袋体前面部（３）及び前記袋体背面部（５）の内面及び／又は外面に結着したことを特徴とする請求項１又は２記載の袋体。

【請求項 4】

前記袋体前面部（１０３）を前記袋体背面部（１０５）より高い高さに形成し、
前記密閉部材（１１１）の第１の固定カバー（１１１ａ）を、前記袋体前面部（１０３）の上端部と所定間隔隔てて該袋体前面部（１０３）の内面に結着し、
前記密閉部材（１１１）の第２の固定カバー（１１１ｂ）を、前記袋体背面部（１０５）の上端部において該袋体背面部（１０５）の内面又は外面に結着し、
前記袋体背面部（１０５）から前記密閉部材（１１１）の上方へ突出した前記袋体前面部（１０３）の延長部（１１９）を、前記密閉部材（１１１）を越えて折曲可能に形成するとともに、前記袋体背面部（１０５）に結着可能に形成したことを特徴とする請求項１又は２記載の袋体。

10

【請求項 5】

予定破断箇所（１２１）を前記延長部（１１９）に設け、該延長部が前記袋体背面部（１０５）に結着された際に、前記予定破断箇所が前記密閉部材（１１１）上方に位置するように設定したことを特徴とする請求項４記載の袋体。

【請求項 6】

20

前記予定破断箇所（１２１）を、２本の互いに平行なミシン目（１２３）を備えた構成としたことを特徴とする請求項５記載の袋体。

【請求項 7】

保護薄片（１２５）を前記予定破断箇所（１２１）の上方に設けたことを特徴とする請求項６記載の袋体。

【請求項 8】

前記固定カバー（１１１ａ，１１１ｂ）を、接着、封着又は溶着して前記袋体前面部（１０３）及び前記袋体背面部（１０５）に結着したことを特徴とする請求項１～７の何れか１項に記載の袋体。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【０００１】

本発明は、請求項１の前提部分に記載した、紙、合成樹脂又はこれらの積層物から成る袋体に関する。

【背景技術】

【０００２】

上記のような袋体は、何年も前から様々な形態のものが知られており、これらは、食品、その他の製品に用いられ、再び密封することが可能である。その中の多くには、消費者にその袋体が既に一度開封されたものかどうかを示す表示が付されている。

【特許文献１】欧州特許出願公開第１０７０６７２号明細書

40

【特許文献２】欧州特許出願公開第１４０５７９７号明細書

【特許文献３】独国実用新案第２９７１９６８５号明細書

【特許文献４】米国特許第６１４９３０２号明細書

【特許文献５】米国特許出願公開第２００４／１１８８６２号明細書

【特許文献６】米国特許第４９２５３１６号明細書

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

しかしながら、従来のように表示を付すのは、製造工程においてコストがかさんだり、美しい外観を損なうといった問題がある。

50

そこで、本発明の目的とする処は、再び密封することが可能であって、既に一度開封されたものかどうかを示す表示が付された、安価に製造可能な袋体を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記目的は、請求項1記載の特徴を有する袋体により達成される。又、他の好ましい形態は従属請求項に記載されている。

【発明の効果】

【0005】

密閉部材の固定カバーを袋体前面部及び袋体背面部に結着することにより、密閉部材を備えた袋体の連続的な製造が可能である。互いに並んで運搬手段上に載置され、中断することなく平行に連結されるこれら袋体は、初めはまだ所定の長さに切断されていない密閉部材に結着されている。この密閉部材は袋体に完全に結着され、外部からは見えないか、或いはその雌雄嵌合部のみが見えている。

【0006】

このように、密閉部材を袋体の内部に完全に統合することにより、これら密閉部材は袋体内部で生じる圧力に対する強度が高くなる。

【0007】

又、延長部を有する袋体の片面を折曲させて密閉部材を完全に覆うことにより、破損、及び不意の開封を防止することができる。更に、密閉部材を覆うことにより美しい外観を得られるとともに、汚損を防止することもできる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下に本発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

【0009】

<実施の形態1>

図1～図3は本発明の第1の実施の形態を示すものであり、袋体全体を符号1で示している。図示の袋体1は、袋体前面部3、袋体背面部5、これら袋体前面部3及び袋体背面部5の間でこれらを互いに結合する袋体中間部7及び袋体底面部9で構成されている。

【0010】

又、袋体前面部3及び袋体背面部5の袋体底面部9と反対側にそれぞれ形成された袋体前面上端部3'及び袋体背面上端部5'には、密閉部材11が押出し成形された凹凸部を有する公知の雌雄嵌合型のファスナとして設けられている。

【0011】

そして、袋体前面部3と袋体背面部5の間の結着、及び密閉部材11に設けられた固定カバー11a、11b間の結着は、袋体前面部3及び袋体背面部5の内部でこれらの各上端部3'、5'に沿ってなされる。

【0012】

尚、このような結着は、製造前に密封部材11に予め塗布された液状接着剤、溶融接着剤により、又は溶着、シールすることによりなされる。

【0013】

而して、密閉部材11としての雌雄嵌合型のファスナの凸部と凹部が嵌合する所定位置にはスライダ13が覆設されており、このスライダ13により袋体1の開閉を容易に行うことができる。

【0014】

又、袋体前面部3及び袋体背面部5はその側方の袋体中間部7との接続部で袋体前面上端部3'及び袋体背面上端部5'に沿って長さaだけ切断されている(図3参照)。それ故、密閉部材11を袋体前面上端部3'と袋体背面上端部5'の間に挿入して複数の密閉部材11を次々に連結することができる(図7～図9参照)。この際、上方へ位置すべき袋体背面部5が適当な手段によって容易に持ち上げられる。

【0015】

そして、密閉部材 11 の連結後、袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 は固定カバー 11a, 11b の端部外方の範囲 15 で互いに結着される。ここで、十分な接着面を得るために、固定カバー 11a, 11b の長さ L は袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 の幅 B よりも短く設定されている。

【0016】

ところで、密閉部材 11 の雌雄嵌合部は少なくとも袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 の幅 B と同様の長さを有している。そして、連続的に製造ができるよう、連結された密閉部材 11、或いはその固定カバー 11a, 11b には切込部 12 が形成されており、この切込部 12 の範囲には袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 を互いに結着する溶着手段（超音波、接着剤等）が形成される。

10

【0017】

又、密閉部材 11 の雌雄嵌合部の支持要素もその両端部で互いに結着されており、スライダ 13 が密閉手段 11 から脱落するのを防いでいる。しかし、密閉部材 11 のこの両端部は必ずしも結着されなければならないわけではなく、開放されたままでも良い。

【0018】

そして、不正開封防止包装として、固定カバー 11a, 11b 間に薄片 17 が設けられるか、或いは形成されている。即ち、薄片 17 の両端部が固定カバー 11a, 11b に結着されている。従って、密閉部材 11 の開封時に袋体 1 の内容物は、薄片 17 をカッターにより切断するか、或いはミシン目が付けられている場合にはそのミシン目に沿って薄片 17 を破くことにより取り出される。

20

【0019】

又、固定カバー 11a, 11b の袋体前面上端部 3' 及び袋体背面上端部 5' への取付或いは結着は、簡単な手段で完全に自動で行うことができる。

【0020】

そして、固定カバー 11a, 11b の密閉部材 11 に対する長さを短縮するとともに、上記のように準備された密閉部材 11 を袋体前面部 3 と袋体背面部 5 の間に挿入できるように、次々に連結された複数の密閉部材 11 において、切込部 12 間の間隔は固定カバーの長さ L に設定されている。

【0021】

次に、公知の方法で密閉部材 11 と袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 の溶着又は接着、及び袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 の固定カバー 11a, 11b の外部における範囲の結着がなされる。

30

【0022】

図 7 はテーブル或いはコンベヤベルト 19 上に互いに隣接して載置された複数の袋体 1 を示しており、この袋体 1 の袋体前面上端部 3' 及び袋体背面上端部 5' における溝が既に切り開かれている。ここで、各密閉部材 11 は、袋体前面上端部 3' と袋体背面上端部 5' の間で各袋体 1 の上端部と平行に連結されている（図 8 参照）。尚、袋体前面上端部 3' を適当な手段でやや持ち上げてやると、密閉部材 11 が容易且つ正確に袋体前面部 3 と袋体背面部 5 の間に配置することができる。

【0023】

40

そして、密閉部材 11 を袋体前面上端部 3' と袋体背面上端部 5' の間に挿入した後、例えば超音波溶着機 21 等の溶着装置によって固定カバー 11a, 11b が袋体前面上端部 3' 及び袋体背面上端部 5' の内面に溶着又は接着される（図 9 参照）。

【0024】

又、袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 における固定カバー 11a, 11b の両端の外部の範囲は、超音波溶着機 21 或いは熱による溶着装置により互いに溶着又は接着されるが、ここで、この溶着又は接着には、固定カバー 11a, 11b に塗布された溶融接着剤又は液状接着剤が使用される。

【0025】

或いは、袋体前面部 3 及び袋体背面部 5 にコーティングを施して、これら袋体前面部 3

50

及び袋体背面部 5 と密閉部材 11 を溶着又は接着しても良い。

【0026】

<実施の形態 2>

図 4～図 6 は本発明の第 2 の実施の形態を示すものであり、袋体を符号 101 で示している。図示の袋体 101 は、本実施の形態においても、袋体前面部 103、袋体背面部 105、及びこれらの間でこれらを互いに結合する袋体中間部 107 で構成されている。

【0027】

而して、図示の袋体 101 における袋体前面部 103 には延長部 119 が形成されており、この延長部 119 は袋体背面部 105 よりも h だけ長く形成されている。

【0028】

又、袋体背面部 105 の上端部 105' は、この袋体背面部 105 の外面又は内面（図 6 の破線で示す箇所参照）で固定カバー 111b に結着されている。そして、密閉部材 111 のもう一方の固定カバー 111a は、高さ h の延長部 119 が形成された袋体前面部 103 の内面に結着されている。尚、密閉部材 111 の袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 との結着は図 1～図 3 に示す本発明の第 1 の実施の形態と同様であり、密閉部材 111 上には同様にスライダ 113 が設けられている。

【0029】

更に、固定カバー 111a、111b の長さ L も同様に袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 の幅 B よりも短く設定されている。そして、本実施の形態においても美観的な観点から密閉部材 111 の雌雄嵌合部の長さが袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 の幅 B よりも幾分短く設定されている。尚、袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 における固定カバー 111a、111b の両端の外部の範囲は互いに結着されている。

【0030】

又、製造技術上の観点から、密閉部材 111 の雌雄嵌合部の長さを第 1 の実施の形態と同様に設定すると好ましい。それにより密閉部材 111 の連結が可能となるとともに、密閉部材 111 の袋体 101 との結着後に各密閉部材 111 を切り離すことができる。

【0031】

ところで、袋体前面部 103 の延長部 119 には、2 本の平行なミシン目 123 から成る予定破断箇所 121 が形成されているが、これに替えて、或いはこれに加えて、袋体 1 に着脱自在の保護薄片 125（図 6 参照）を設けることができる。

【0032】

又、密閉部材 111 の袋体 101 との結着は第 1 の実施の形態と同様に図 7～図 9 に従って行われ、袋体前面部 103 の延長部 119 は製造の妨げとなることはない（図 8 及び図 9 参照）。

【0033】

而して、袋体前面部 103 の延長部 119 は、密閉部材 111 が袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 と結着された後に折曲されてその端部 127 において袋体背面部 105 に結着される（図 6 参照）。このように袋体前面部 103 の延長部 119 を折曲することにより、袋体 101 の上部が完全に閉鎖されるとともに、密閉部材 111 が袋体前面部 103 の延長部 119 で覆われる。従って、予定破断箇所 121 は密閉部材 111 の上方に位置することになる。尚、延長部 119 を袋体背面部 105 に設けることももちろん可能である。

【0034】

又、固定カバー 111a、111b がそれぞれ袋体前面部 103 及び袋体背面部 105 の内面に結着されていれば、本実施の形態においても、第 1 の実施の形態と同様に不正開封防止包装として、薄片 117 を密閉部材 111 の固定カバー 111a、111b に設けることができる。

【0035】

そして、図 4～図 6 に基づく袋体 101 の開口は、予定破断箇所 121 をミシン目 123 にそって破くか、或いは予定破断箇所 121 を解放する保護薄片 125 を引くことによ

10

20

30

40

50

りなされ、その後、密閉部材 1 1 1 が解放される。ここで、不正開封防止包装として薄片 1 1 7 が設けられていれば、袋体 1 の内容物を取り出すためにこの薄片 1 1 7 を更に開かなければならない。

【図面の簡単な説明】

【0 0 3 6】

【図 1】左半分が閉鎖され、右半分が解放された、本発明の第 1 の実施の形態に係る袋体の斜視図である。

【図 2】図 1 の I I - I I 線に沿って示す袋体の断面図である。

【図 3】図 1 の I I I - I I I 線に沿って示す袋体の断面図である。

【図 4】本発明の第 2 の実施の形態に係る袋体の背面からの斜視図である。

10

【図 5】図 4 の V - V 線に沿って示す袋体の断面図である。

【図 6】図 4 の V I - V I 線に沿って示す袋体の断面図である。

【図 7】密閉部材を袋体に挿入するための梱包装置の平面図である。

【図 8】図 7 の V I I I - V I I I 線に沿って示す梱包装置の断面図である。

【図 9】図 7 の I X - I X 線に沿って示す梱包装置の断面図である。

【符号の説明】

【0 0 3 7】

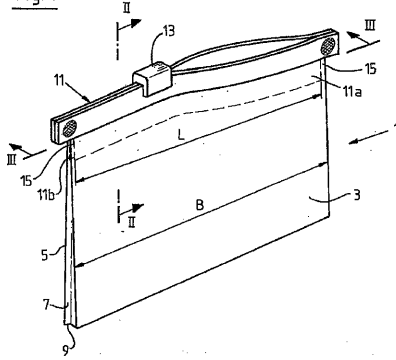
1, 1 0 1	袋体
3, 1 0 3	袋体前面部
3 '	袋体前面上端部
5, 1 0 5	袋体背面部
5 ', 1 0 5 '	袋体背面上端部
7, 1 0 7	袋体中間部
9	袋体底面部
1 1, 1 1 1	密閉部材
1 1 a, 1 1 b, 1 1 1 a, 1 1 1 b	固定カバー
1 3, 1 1 3	スライダ
1 7, 1 1 7	薄片
1 9	テーブル或いはコンベヤベルト
2 1	超音波溶着機
1 1 9	延長部
1 2 1	予定破断箇所
1 2 3	ミシン目
1 2 7	端部
B	袋体幅
L	固定カバー長さ

20

30

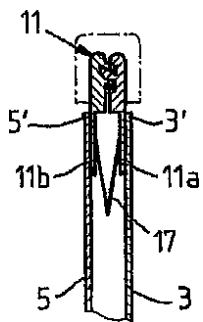
【図 1】

Fig. 1



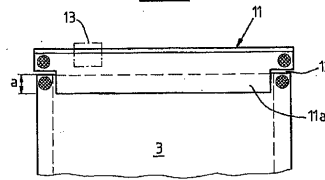
【図 2】

Fig. 2



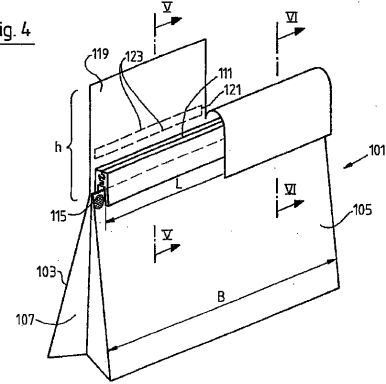
【図 3】

Fig. 3



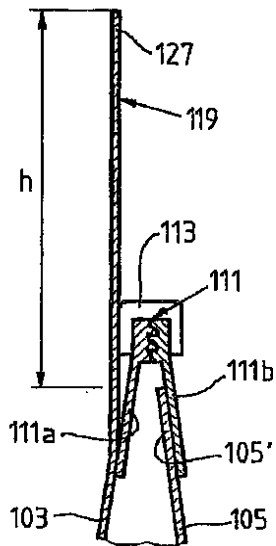
【図 4】

Fig. 4



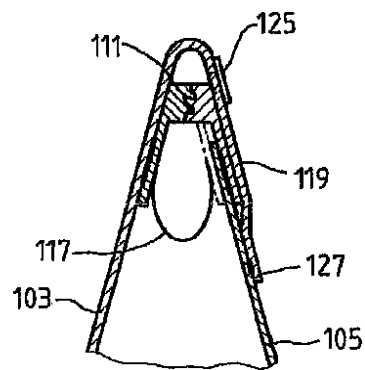
【図 5】

Fig. 5



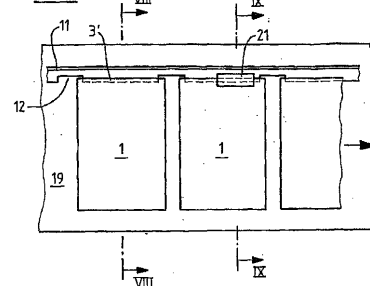
【図 6】

Fig. 6



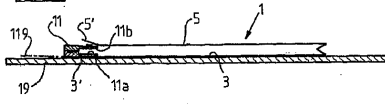
【図 7】

Fig. 7



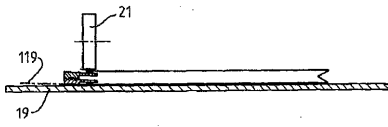
【図 8】

Fig. 8



【図 9】

Fig. 9



フロントページの続き

審査官 佐々木 正章

- (56)参考文献 国際公開第01/032521 (WO, A1)
特開2003-319806 (JP, A)
特開2002-293336 (JP, A)
国際公開第03/018417 (WO, A1)
特開2001-315799 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 33/25

B65D 33/34